八洲学園大学生涯学習学部

学習ガイド

２０１２

八洲学園大学

学習ガイド　目次

はじめに－我が国唯一の生涯学習学部生涯学習学科 …… 3頁

1　何をめざすのか …… 3頁

2　何を学ぶのか ～ 科目一覧 ～
（1）科目一覧 …… 5頁
（2）科目の選択について …… 9頁

3　どのように学ぶのか
（1）学生の区分 …… 10頁
（2）履修方法 …… 10頁
（3）卒業要件 …… 11頁

4　本学の資格等取得支援　～国家資格・科目修得認証等～
（1）国家資格の取得 …… 12頁
（2）各種資格取得支援 …… 17頁
（3）科目修得認証 …… 18頁

5　日本語力サポートプログラム …… 21頁

6　履修モデル
・生涯学習学科生涯マネジメント系履修モデル
（1）社会教育主事・図書館司書・博物館学芸員資格を取得する場合 …… 22頁
（2）マネジメント能力を持った社会教育主事を目指す場合 …… 24頁
・生涯学習学科生涯マネジメント系履修モデル …… 26頁
【司書資格および学芸員資格の科目改正について】 …… 28頁
【紹介】レジリエンス（成長性弾力）準系について …… 33頁

はじめに ― 我が国唯一の生涯学習学部生涯学習学科

平成 21(2009)年 4 月 1 日に改組した八洲学園大学（以下「本学」という。）生涯学習学部は、新たに「生涯学習学科」を置き、さらに 22 年度には学科内を改組しました。

生涯学習学部生涯学習学科というのは、我が国では本学にしかない新しい学科で、変化の激しいこれからの社会で、もっとも必要とされる生涯学習支援力と生涯マネジメント力を養う新鮮な学科です。

多様な資格・検定の取得支援を行うほか、本学独自の日本語力サポートプログラムで、いま社会で求められている日本語力を鍛えます。

1　何をめざすのか

八洲学園大学

本学は、学則にもあるように、主として通信の方法により有用な人材の養成を企図し、もって社会に貢献するとともに、併せて生涯学習の要望に積極的に応えることを目的としています。

生涯学習学部

生涯学習学部の目的は、生涯学習とその支援および生涯マネジメント、レジリエンスについての研究を行い、その成果を生かした教育を通して、生涯学習社会の実現に貢献しうる課題発見・解決能力、実践力を培い、その基盤となる豊かな人間性の育成を図るところにあります。（レジリエンスについて、詳しくは 33 頁をご覧下さい。）

生涯学習学科

生涯学習学科は、生涯学習支援系と生涯マネジメント系、レジリエンス準系で構成され、次のような人材を養成します。

- 企業等の能力開発支援を含め、広く生涯学習社会の実現のために社会に貢献し、各種学習支援プログラムをデザイン・実施・運営したり、学習相談に応じたりする人
- 生涯学習センター、公民館、図書館、博物館等で専門性を生かして働く人
- 企業、自治体等で経理・会計・マネジメント能力をもって活躍できる人
- 困難に遭っても問題解決能力と意欲を持って前進し、Ｖ字型回復を図ることができる人（情報収集力、的確な事象把握力、論理力、判断力、行動力、創造力を有した人）

また、生涯学習支援系と生涯マネジメント系にまたがるレジリエンス準系のカリキュラムを開発しており、順次新規科目を増設して参ります。それにより、複雑化する社会の中で、困難にぶつかってもそれを人間らしく乗り越えることができるレジリエンス（Ｖ字型回復力・成長性弾力）を身につけ、それを磨くことを通して社会に貢献しようとする人を養成します。（詳しくは 33 頁をご覧ください。）

■ 生涯学習支援系

職業能力開発を含む生涯学習についての深い識見、専門的知識・技術、その基盤となる豊かな人間性を養います。

特に最近では自治体にもニュー・パブリック・マネジメント（ＮＰＭ）が導入され、生涯学習支援者にもマネジメント能力が求められています。生涯マネジメント系の科目を合わせて履修していただくことで、マネジメント能力をもった生涯学習支援者を養成します。

たとえば、

・社会教育主事、社会教育指導員等として学習支援をデザイン・運営したり、学習相談員として学習者にアドバイスしたりできる人
・公民館主事、施設の指導系職員、司書、学芸員等として専門性とマネジメント力を生かして働くことのできる人
・学校を支援したり、地域づくりに貢献したりすることができる人
・ＮＰＯ法人等で活動し、他者のため、社会のために貢献したりすることのできる人

卒業単位で「社会教育主事」「司書」「学芸員」の国家３資格が取得できます。そのほか、「学校図書館司書教諭」（教員免許状取得者対象）の国家資格、「生涯学習科目修得認証」や「学習相談員基礎スキル科目修得認証」が取得できます。

我が国の生涯学習推進を担っている著名な講師陣が学習支援の理論とスキルを提供します。

■ 生涯マネジメント系

現在・未来のライフステージづくりのために、資格・検定試験に活用できる科目を開設し、試験合格を支援します。

ビジネス・行政・地域で新たな道を切り拓く力とともに、その基盤となる豊かな人間性を養います。

特にこれからの知識基盤社会にあっては学習力を有した企業人、公務員等が求められています。生涯学習支援系の科目を合わせて履修していただくことで、学習力を有した人材を養成します。

たとえば、

・マネジメント力やビジネス・スキル（コミュニケーション力、論理力、問題解決力等）を身につけた人
・税理士、社会保険労務士等のスペシャリストとして、企業やＮＰＯ等で専門的な知識を発揮できる人
・学習力を有したリーダーとして企業や自治体でマネジメントができる人
・定年後に地域で活動するために必要な知識・スキルを身につけた人
・起業にチャレンジする人
・就転職希望者の仕事移動を診断できる人

「税理士」「日商簿記１、２級」「社会保険労務士」「ビジネス・キャリア検定」等の各種資格・検定取得支援科目群や社会人のためのビジネス・スキル育成のための科目群があります。

そのほか、以下の科目修得認証が取得できます。ただし、＊のついた科目修得認証の科目には開講が24 年度までとなるものがありますので、24 年度中に履修してください。

【科目修得認証】

「税財務・ファイナンシャルプランナー基礎スキル科目修得認証」
「仕事移動診断士科目修得認証」
「企業とマネジメントの基礎スキル科目修得認証」＊
「社会人基礎力（I）科目修得認証」＊
「省エネ型都市・地域づくり科目修得認証」＊

■ 日本語力サポートプログラム

正しい日本語の書き方を指導し、日本語力アップをサポートします。

２　何を学ぶのか ～ 科目一覧 ～

（１）科目一覧

本学の授業科目は、基礎科目、専門科目及び資格科目に分かれています。
基礎科目、専門科目の授業科目はさらに科目群に分けられています。
ここに示すのは、科目群毎の科目一覧です。科目の種類と履修年次の目安は、履修モデル（22 頁）とあわせて履修計画を立てる際の参考にしてください。

※開講学期や履修形態(テキスト履修科目かスクーリング履修科目か)は変更されることがあります。
※24 年度から司書資格科目と学芸員資格科目が改定されます。28 頁の「司書資格および学芸員資格の科目改正について」をご覧下さい。

Ｔ：テキスト履修科目　　Ｓ：スクーリング履修科目
ＳＳ：セミナースクーリング履修科目　　ＲＳ：レポートスクーリング履修科目
Ｇ：卒業論文関係科目　　－：休講または開講時に指示あり

基礎科目　　※Ｓ／Ｔ…ＳまたはＴ

科目名	単位数	履修形態・開講学期	科目の種類			履修年次の目安			資格等
			概論 総論	演習 各論	特講 その他	1～2	2～3	3～4	
生涯学習論１（生涯における学習設計）	2	Ｓ／Ｔ	●			○			☆★◇
生涯学習論２（生涯学習の支援・推進）	2	Ｔ	●			○			☆
現代社会と生涯学習	2	Ｓ			●	○	○	○	☆
生涯学習の方法	2	Ｔ春		●		○	○		☆
生涯学習社会と学習成果の評価	2	Ｔ秋		●			○		☆
社会教育施設と事業	2	Ｔ		●			○		☆
図書館概論	2	Ｔ	●			○	○		★
図書・図書館史	1	Ｔ		●			○	○	★
情報化社会と情報の選択 （公共図書館・大学図書館編）	2	Ｔ		●			○		★
法学概論	2	Ｓ	●			○			□
経済学入門	2	Ｓ	●			○			□
日本経済入門	2	Ｓ	●			○			□
経営学入門	2	Ｓ	●			○			
リスクマネジメント総論	2	Ｔ	●				○		
文章表現１（文章表現入門）	2	Ｓ	●			○			
論述力スキル （アカデミック・ライティング）	2	Ｓ	●			○			
情報リテラシー （情報活用から考え方・書き方まで）	2	Ｔ	●			○			
テクノロジーの発達とヒューマニティ	2	Ｓ	●			○			
事象の探求	2	Ｓ春		●			○		
認識と判断の心理学 （人の認識と判断はいかになされているか）	2	Ｓ秋		●			○		
才能発揮技法	2	Ｓ			●		○		
万葉と日本人のこころ	2	Ｔ			●	○	○	○	

☆社会教育主事　★図書館司書　◇博物館学芸員　□税理士

専門科目【生涯学習支援系】

※Ｓ／Ｔ…ＳまたはＴ　隔春…隔年春学期　隔秋…隔年秋学期

科目名	単位数	履修形態・開講学期	科目の種類			履修年次の目安			資格
			概論 総論	演習 各論	特講 その他	1～2	2～3	3～4	
生涯学習論									
生涯学習政策	2	Ｔ秋		●			○	○	☆
生涯学習支援システム・ネットワーク	2	Ｓ隔秋		●			○	○	☆
学習支援情報・学習相談	2	Ｔ		●			○		☆
地域学習支援情報の収集・提供	1	Ｔ春		●				○	☆
学習成果の活用と地域学習支援情報の提供	1	Ｔ秋		●				○	☆
学習相談のためのカウンセリング	2	Ｔ		●		○	○		
生涯学習とキャリア形成	2	Ｔ		●		○	○	○	☆
生涯学習学研究法（演習）	2	Ｓ春		●			○		☆
生涯学習学新構想（演習）	2	Ｓ秋		●			○		☆
社会教育学									
社会教育計画１（総論）	2	Ｔ	●			○			☆
社会教育計画２（各論）	2	Ｔ		●		○			☆
社会教育課題研究１	2	Ｔ			●			○	☆
社会教育課題研究２	2	Ｔ			●			○	☆
学社連携・融合論	2	Ｔ春		●			○	○	☆
社会教育調査法１（社会教育調査の技法）	2	Ｔ隔春		●			○		☆
社会教育調査法２（社会教育調査の実際）	2	Ｔ隔秋		●			○		☆
社会教育学研究法（演習）	2	Ｓ春		●				○	☆
社会教育学新構想（演習）	2	Ｓ秋		●				○	☆
図書館学									
図書館制度・経営論	2	Ｔ		●			○	○	★
図書館情報技術論	2	Ｔ		●			○	○	★
図書館サービス概論	2	Ｔ	●			○	○		★
情報サービス論	2	Ｔ	●			○	○		★
児童サービス論	2	Ｓ／Ｔ		●		○	○		★
情報サービス演習	2	Ｓ		●			○	○	★
図書館情報資源概論	2	Ｔ	●			○	○		★
情報資源組織論	2	Ｔ	●			○	○		★
情報資源組織演習	2	Ｓ		●			○	○	★
博物館学									
博物館概論	2	Ｔ	●			○			◇
博物館経営論	2	Ｓ		●		○			◇
博物館資料論	2	Ｔ		●		○			◇
博物館資料保存論	2	Ｔ		●			○		◇
博物館展示論	2	Ｔ		●			○		◇
博物館教育論	2	Ｔ		●			○		◇
博物館情報・メディア論	2	Ｔ		●			○		◇
博物館実習	3	ＲＳ			●			○	◇
特別研究									
特別研究（生涯学習支援研究）	2	Ｔ			●			○	
特別研究（社会教育・生涯学習研究）	2	Ｔ			●			○	
特別研究（学習成果を生かす社会システム研究）	2	Ｔ			●			○	
特別研究（生活・地域・学習研究）	2	Ｔ			●			○	
特別研究（図書館学）	2	Ｔ			●			○	
特別研究（日本文化史研究）	2	Ｔ			●			○	

☆社会教育主事　★図書館司書　◇博物館学芸員

専門科目【生涯マネジメント系】

科目名	単位数	履修形態・開講学期	科目の種類			履修年次の目安			資格取得支援
			概論	演習	特講	1～2	2～3	3～4	
			総論	各論	その他				
経済学・財政学（税制・税法）									
財政学（国の予算と国民生活）	2	T	●			○	○		□
地方財政（市町村の予算と機能）	2	T		●			○		□
地域開発・まちづくり論	2	T		●			○		
現代都市と公共政策	2	T			●			○	
法人税法（総論）	2	S春	●				○		□
法人税法（各論）	2	S秋		●				○	□
消費税法	2	T春		●			○		□
相続税法	2	T秋		●				○	□
税務と財務諸表	2	T春		●				○	□■◆
株・保険・投資ファンド論	2	T秋		●			○		□◎
会計学・簿記									
会計情報システム論	2	S	●			○	○		□■
簿記(入門)	2	S	●			○			□■
簿記と経営	2	T		●			○	○	□■
企業会計の最前線	2	T			●			○	□■
原価計算(入門)	2	S		●			○		□■
財務分析とマネジメント	2	T			●			○	□■
経営学									
現代マネジメント概論Ⅰ（基礎編）	2	S春	●				○		
現代マネジメント概論Ⅱ（応用編）	2	S秋	●					○	
現代日本企業概論	2	S秋	●			○			
実践ビジネス経営学	2	T		●		○			
企業ガバナンス論	2	T秋		●			○		
経営と行動科学	2	S秋			●			○	
近代企業家の思想と行動	2	S		●			○		
リスクマネジメント各論１ （金融危機、不確実性の時代）	2	S春		●				○	
リスクマネジメント各論２ （エネルギー資源獲得のグローバル競争）	2	S秋			●			○	
サプライチェーンマネジメント論	2	T春		●			○		
日本型グローバル企業戦略	2	S			●			○	
企業倫理（基礎）	2	T春		●			○		
企業倫理（応用）	2	T秋			●			○	
実践マーケティング	2	S秋		●			○		◆
生産管理	2	T秋		●				○	◎◆
リーダーシップ論	2	ー		●			○		
リーダーシップとコーチング	2	S春			●			○	
キャリア・ディベロップメント	2	T秋		●		○	○		◆△
仕事学のすすめ（問題解決と意思決定）	2	S秋			●	○			
構想力開発論	2	S秋		●			○		
アイディア発見スキル１（語句・文章から）	2	S春			●	○			
労務管理・起業									
ＮＰＯ法人の基礎	2	T秋		●		○			◎
社会保険労務（入門）	2	T秋		●		○	○		◎◆
社会保険労務（実務）	2	T春		●			○	○	◎◆△

□税理士　■簿記　◎社会保険労務士　◆ビジネス・キャリア検定

△キャリア・デベロップメント・アドバイザー

（次頁に続く）

科目名	単位数	履修形態・開講学期	科目の種類			履修年次の目安			資格取得支援
			概論 総論	演習 各論	特講 その他	1～2	2～3	3～4	
仕事移動診断									
仕事移動診断総論	2	T	●			○			
仕事移動診断各論（転職）	2	T		●			○		
仕事移動診断各論（地域社会活動移動）	2	T		●			○		
仕事移動診断技法（転職）	2	S S			●			○	
仕事移動診断技法（地域社会活動移動）	2	S S			●			○	
論述・コミュニケーション									
自己表現力スキル１	2	S春		●			○		
自己表現力スキル２	2	S秋		●				○	
プレゼンテーション・スキル	2	ー		●			○		
論理的思考１（数学的思考と発想）	2	S春		●			○		
温暖化対策・省エネルギー									
省エネルギー概論	2	S秋	●			○			
資源環境と人間	2	S春		●			○		
水資源概論(食料と水・エネルギー･環境)	2	S春	●			○			
特別研究									
特別研究(福祉国家と日米経済)	2	T			●			○	

専門科目【両系共通科目】

科目名	単位数	履修形態・開講学期	科目の種類			履修年次の目安		
			概論 総論	演習 各論	特講 その他	1～2	2～3	3～4
特別講義					●	○	○	○
卒業論文関係								
卒業研究演習	2	G		●				○
卒業論文関係	4	G			●			○

※特別講義の単位数・開講学期等については、開講時に別途お知らせいたします。

資格科目【学校図書館司書教諭】

科目名	単位数	履修形態・開講学期
学校経営と学校図書館	2	T
学校図書館メディアの構成	2	T
学習指導と学校図書館	2	T
読書と豊かな人間性	2	T
情報メディアの活用	2	T

※資格科目（学校図書館司書教諭）は卒業単位として認められません。

（２）科目の選択について

本学では、関心のある科目を自由に選択して履修することができます。

生涯学習学部生涯学習学科は「生涯学習支援系」と「生涯マネジメント系」で構成されていますが、学生の皆さんは両方の系の科目から自分の目的や関心に合わせて自由に履修しても構いませんし、片方の系の科目を集中的に履修してもかまいません（ただし、正科生として卒業を目指す方は、卒業要件（→11 頁）を満たす必要があります)。

■レジリエンス準系の科目について

「レジリエンス準系」の科目は、5 頁～8 頁の基礎科目、生涯学習支援系、生涯マネジメント系の専門科目のいずれかに含めています。詳しくは 33 頁をご覧ください。今後も科目の充実を図っていく予定です。

■キャリアガイダンスの科目について

キャリアガイダンスの役割を果たす科目に「生涯学習とキャリア形成」（Ｔ科目、春・秋学期開講）と「キャリア・ディベロップメント」（Ｔ科目、秋学期開講）がありますので、できるだけ１年次に履修するようにしてください。

■旧カリキュラムの科目の履修について

なお、上記の一覧にあげた科目の他に当面開講を予定している旧専攻の科目（ホームページに掲示）もあり、幅広い学習をすることができます。旧専攻（履修シミュレーションでは『共通専攻』と表示）の基礎科目や家庭教育専攻の専門科目は卒業単位（自由選択科目、11 頁参照）になります。

【注】履修登録シミュレーション

開講されている科目は、履修申請の際に利用する履修登録シミュレーションで確認できます。学期ごとに情報が更新され、シラバスや授業料、単位数の確認ができます。

履修登録シミュレーションは、eLy の学生支援センターページの「お知らせ」から見ることができます。

（情報の更新のため、見ることができない時期もあります。ご了承ください。）

３　どのように学ぶのか

（１）学生の区分

学生は、次の区分のいずれかとして入学します。学生の種類によって修業年限・在学年限等が異なります。

学生区分	対象	修業年限･在学年限	学位記: 学士(学術)の取得
正科生(1 年次)	･本学を卒業することを目的とする方	修業年限:4 年 在学年限:12 年	取得できる
正科生 (学士取得 編入学)	･短期大学等を既に卒業している方で、本学を卒業することを目的とする方	【2 年次相当転･編入】 修業年限:3 年 在学年限:9 年 【3 年次相当転･編入】 修業年限:2 年 在学年限:6 年	取得できる
正科生 (資格･リカレント 編入学)	･各資格の学歴要件等は既に満たしており、本学では各資格取得に必要な科目のみの履修を希望する方 ･大学等をすでに卒業している方で、資格取得や検定試験合格のためなど、本学で多数の科目の履修を希望する方	【2 年次相当転･編入】 修業年限:3 年 在学年限:9 年 【3 年次相当転･編入】 修業年限:2 年 在学年限:6 年	卒業に必要な要件を満たせば取得できる
科目等履修生	･大学入学資格は有しており、本学の卒業を目的とせず、一部の科目のみの履修を希望する方 ･各国家資格の学歴要件等は既に満たしており、本学では教育訓練給付制度を利用して各国家資格取得を目指す方	在学年限:3 年	
特修生	･中学卒業など大学入学資格を有しない方 ※特修生として入学後、本学が指定する科目から 8 科目 16 単位を修得し、かつ入学を希望する年の 4 月 1 日に満 18 歳に達していれば、所定の手続きを経て正科生となることができる。	在学年限:3 年	正科生の入学資格を取得した後に、正科生として卒業することで取得できる

注：正科生、科目等履修生は上記のほかに、所定の科目の単位を修得することで、本学が付与している各種資格を取得できます。また、所定の科目の修得により税理士の受験資格を、学士の学位の取得により社会保険労務士の受験資格をそれぞれ取得できます。

（２）履修方法

履修方法にはテキスト履修、スクーリング履修、卒業論文関係等があります。卒業までに修得が必要な 124 単位のうち 30 単位以上は、必ずスクーリング履修を受講する必要があります（→11 頁）。

■**テキスト履修**：この履修形態をとる科目を**テキスト履修科目（Ｔ科目）**という

教科書による自学自習を主とし、１単位当たり１回 1600 字程度（科目によって異なります）の課題レポートを提出し添削指導を受け、課題レポートおよび科目修得試験に合格すると単位が修得できます。

学習の流れ（２単位科目の場合）

履修登録→第１回課題提出→合格→第２回課題提出→合格→科目修得試験→合格→単位修得

2000 字程度の論文を書いて合格すると単位が修得できる論文方式の科目もあります。

課題レポートの提出、担当教員への質問等はｅラーニングシステムを利用して行います。質問は随時送信可能です。科目修得試験は、通学でもｅラーニングシステムでも受験できます。

■スクーリング履修:この履修形態をとる科目を**スクーリング履修科目（Ｓ科目）**という

授業の開講日時に合わせてアクセスすれば、通学することなく自宅でメディアスクーリング（双方向ライブ授業）を受講することが可能です。チャットで質問したり意見を述べたりすることができます。もちろん、大学に通学しても構いません。

出席が良好で、かつ最終試験に合格すると単位が修得できます。

仕事等のために、時間割通りの時間に受講できない学生のために、その日に限って受講が認められる再配信授業を一部の科目で導入しています。その日に受講が不可能な場合、やむを得ない理由であれば、担当教員にその旨を伝え、許可を得た上で、録画配信教材で学習してください。

時間割には平日の日中及び夜間に開講される通常スクーリングの他、週末スクーリング、集中スクーリング等があります。本学の web サイトをご覧ください。

■卒業論文関係

希望者のみが履修する選択科目で、卒業研究演習と卒業論文を１年かけて履修します。指導教員のもとで論文を書き、審査に合格すると単位が修得できます。

卒業論文を履修する場合には原則として、それまでに 100 単位以上修得していることが求められます。

本学の正科生として卒業した後、再び正科生として再入学された方は、卒業研究演習と卒業論文を履修することはできませんのでご注意ください。

（３）卒業要件

■正科生（１年次）

４年以上在学し、下の表に示した科目区分にしたがって 124 単位以上を修得することで、卒業することができます。ただし、30 単位以上はスクーリング履修科目を修得しなければなりません。

区分	選択必修
基礎科目	30
専門科目	64
自由選択科目	30
計	124

注　ア　自由選択科目は、既履修以外の基礎科目及び専門科目から自由に選択できます。

　　イ　資格科目（学校図書館司書教諭）は卒業単位には含まれません。

■正科生（編入学）

編入学又は転入学により本学の正科生となった場合は､本学入学前に修得した科目から最大 60 単位が卒業単位の一部として認められます。

その単位数を卒業所要単位数 124 単位（スクーリング履修科目 30 単位）から減じた単位数（うち、認定単位数に応じスクーリング履修科目の単位 18 単位～30 単位以上）を修得し、定められた期間以上在学することで、卒業することができます。

４　本学の資格等取得支援　～国家資格・科目修得認証等～

（１）国家資格の取得

本学では、社会教育主事、図書館司書、学校図書館司書教諭、博物館学芸員の４つの国家資格が取得できます。

社会教育主事、図書館司書、博物館学芸員の３つの国家資格は卒業単位 124 単位の中で修得できますので、正科生は卒業と同時にこれらの３つの国家資格を取得することが可能です。

教育訓練給付制度と国家資格の取得

本学で取得できる４つの国家資格（社会教育主事、図書館司書、学校図書館司書教諭、博物館学芸員）は、いずれも厚生労働省の教育訓練給付制度の対象として認可されています。１年間で資格科目を修得すれば、教育訓練経費（授業料等にほぼ該当*）の 20 パーセントがハローワークから支給されます。ただし、科目等履修生に限ります。

＊詳しくは、学生支援センターにお問い合わせください。

各資格の取得方法等につきましては、次頁以降をご覧下さい。

■社会教育主事

短期大学卒業または大学に2年以上在学し62単位以上修得した方が所定科目の単位を修得すると資格（任用資格）が取得できます。

最短期間	合計費用※	学歴要件	科目・単位数	スクーリング	通学	備考
1年～	188,000円～	短大卒以上	12～13科目 24単位	0科目～ 5科目10単位	不要	スクーリングは 選択科目による

※教科書代、デポジットを除く

他大学での不足単位のみを希望する場合は1科目から履修可能で、各大学の単位修得・成績証明書により資格が証明できます。

開設授業科目	単位	履修形態	開講時期	履修方法	社会教育主事講習等規程で定める科目名
生涯学習論1（生涯における学習設計） ☆	2	T	春・秋	1（T か S を選択履修）、2の計4単位必修	生涯学習概論
	2	S	春		
生涯学習論2（生涯学習の支援・推進） ☆	2	T	春・秋		
社会教育計画1（総論） ☆	2	T	春・秋	計4単位必修	社会教育計画
社会教育計画2（各論） ☆	2	T	春・秋		
社会教育学新構想（演習）	2	S	秋	演習から2科目4単位を選択履修、または課題研究の2科目4単位を履修	社会教育演習
社会教育学研究法（演習）	2	S	春		
生涯学習学新構想（演習） ☆	2	S	秋		
生涯学習学研究法（演習） ☆	2	S	春		
社会教育課題研究1	2	T	春・秋		社会教育課題研究
社会教育課題研究2	2	T	春・秋		
現代社会と生涯学習	2	S	春・秋	6科目12単位以上を選択履修	社会教育特講1（現代社会と社会教育）
生涯学習政策 ☆	2	T	秋		
生涯学習とキャリア形成 ☆	2	T	春・秋		
社会教育施設と事業 ☆	2	T	春・秋		社会教育特講2（社会教育活動･事業・施設）
学社連携・融合論 ☆	2	T	春		
生涯学習の方法 ☆	2	T	春		
生涯学習支援システム・ネットワーク	2	S	春		
学習支援情報・学習相談	2	T	春・秋		
地域学習支援情報の収集・提供	1	T	春		
学習成果の活用と地域学習支援情報の提供	1	T	秋		
社会教育調査法1（社会教育調査の技法）	2	T	隔年春		社会教育特講3（その他必要な科目）
社会教育調査法2（社会教育調査の実際）	2	T	隔年秋		
生涯学習社会と学習成果の評価 ☆	2	T	秋		

※教育訓練給付金は科目等履修生が上記☆の科目を1年で修得した場合のみ対象となります。隔学期での開講となる科目もありますのでご注意下さい。

【科目等履修生、資格・リカレント編入学の方へ】

最短1年で取得できます。科目等履修生の方は、3年までの長期履修計画も可能です。

■図書館司書

短期大学もしくは四年制大学卒業の方が所定科目の単位を修得すると資格が取得できます。

最短期間	合計費用※1	学歴要件	科目・単位数	スクーリング	通学
半年～	208,000 円～ ※2	短大卒 大卒	13 科目 25 単位 ※2	2 科目 4 単位 ～4 科目 8 単位	不要

※1 教科書代、デポジットを除く

本学で全ての単位を修得した場合、「司書資格証明書」が発行可能です。他大学での不足単位のみを希望する場合は 1 科目から履修可能で、各大学の単位修得・成績証明書により資格が証明できます。

開設授業科目	単位	履修形態	開講時期	履修方法	図書館法施行規則で定める科目名
生涯学習論1 （生涯における学習設計）	2	T	春・秋	TかSを選択履修	生涯学習概論
	2	S	春		
図書館概論	2	T	春・秋	必修	図書館概論
図書館制度・経営論	2	T	春・秋	必修	図書館制度・経営論
図書館情報技術論	2	T	春・秋	必修	図書館情報技術論
図書館サービス概論	2	T	春・秋	必修	図書館サービス論
情報サービス論	2	T	春・秋	必修	情報サービス論
児童サービス論	2	T	春・秋	TかSを選択履修	児童サービス論
	2	S	春・秋		
情報サービス演習※2	2	S	春・秋	必修	情報サービス演習
図書館情報資源概論	2	T	春・秋	必修	図書館情報資源概論
情報資源組織論	2	T	春・秋	必修	情報資源組織論
情報資源組織演習※2	2	S	春・秋	必修	情報資源組織演習
情報化社会と情報の選択 （公共図書館・大学図書館編）	2	T	春・秋	必修	図書館基礎特論
図書・図書館史	1	T	春・秋	必修	図書・図書館史

★平成 24 年度から資格取得に必要な科目が変わります。詳細は 28 頁の「司書資格および学芸員資格の科目改正について」をご覧下さい。

【科目等履修生、資格・リカレント編入学の方へ】

最短半年で取得できますが、お仕事、ご家庭などでご多忙の方には 1 年以上での単位修得をお勧めしています。

※2 新要件に合わせて、「情報サービス演習」と「情報資源組織演習」の開講調整中のため、合計費用や単位数に変更が生じる可能性があります。詳細は別途お問合せください。

■学芸員

学士の学位をお持ちの方が所定科目の単位を修得すると資格が取得できます。

最短期間	合計費用※	学歴要件	科目・単位数	スクーリング	通学	備考
1 年～	190,500 円～	学士（大卒）以上	9 科目 19 単位	1 科目 2 単位～2 科目 4 単位＋実習	不要	博物館で 1～2 週間程度の実習が必須

※教科書代、デポジットを除く

本学で博物館実習の履修を希望する場合には実習以外の 8 科目を全て本学で修得済みである必要があります。他大学での不足単位のみ希望される場合、博物館実習以外の科目は 1 科目から履修可能ですが、実習は履修できませんのでご注意下さい。

開講授業科目	単位	履修形態	開講時期	履修方法	博物館法施行規則で定める科目名
生涯学習論1（生涯における学習設計）	2	T	春・秋	TかSを選択履修	生涯学習概論
	2	S	春		
博物館概論	2	T	春・秋	必修	博物館概論
博物館経営論	2	S	春・秋	必修	博物館経営論
博物館資料論	2	T	春・秋	必修	博物館資料論
博物館資料保存論	2	T	春・秋	必修	博物館資料保存論
博物館展示論	2	T	春・秋	必修	博物館展示論
博物館教育論	2	T	春・秋	必修	博物館教育論
博物館情報・メディア論	2	T	春・秋	必修	博物館情報・メディア論
博物館実習	3	RS	春・秋	必修	博物館実習

★平成 24 年度から資格取得に必要な科目が変わります。詳細は 28 頁の「司書資格および学芸員資格の科目改正について」をご覧下さい。

博物館実習は、実習担当教員と相談のうえ、学生さんが居住地や興味・関心を考慮し該当する博物館について、「学生の実習を受け入れているか」「受け入れ可能な場合の時期や条件」などを各自で調査します。その上で、条件が合えば大学から該当施設に正式に実習の依頼を行い、1～2 週間程度の実習を行うものです。

博物館実習の時期や期間は実習先の博物館により異なりますが、各博物館のおおよその傾向として、本学の春学期（4 月～9 月）の後半にあたる 7 月～8 月ごろに実習期間を設け、前年度末～春学期初めの時期に実習生を募集しているところが多く、秋学期（10 月～3 月）にあたる時期に実習生の受け入れをしている館は少ないようです。

そのため、春学期から 1 年での履修を希望しても秋学期に実習先が決まらず、結果的に 1 年半以上の履修となる場合もあります。実習を希望する博物館の実習時期や条件についての情報を早めに収集し、また、担当教員に相談しながら計画的に学習を進めることをお勧めしています。

【科目等履修生、資格・リカレント編入学の方へ】

最短 1 年で取得できます。科目等履修生の方は、3 年までの長期履修計画も可能です。

■学校図書館司書教諭

教育職員免許状をお持ちの方が所定科目の単位を修得すると資格が取得できます。
本学は教員免許課程認定大学ではないため、すでに教員免許状を取得済みの方のみが対象となります。

最短期間	合計費用※	学歴要件	科目・単位数	スクーリング	通学	備考
半年～	92,000 円～	短大卒以上	5 科目 10 単位	0 科目	不要	教員免許状を持つ方のみ対象

※教科書代、デポジットを除く

本学で単位修得後、本学から文部科学省へ司書教諭講習修了証書の申請を行います。
他大学での不足単位のみを希望する場合は 1 科目から履修可能です。

開設授業科目	単位	履修形態	開講時期	履修方法	学校図書館司書教諭講習規程で定める科目名
学校経営と学校図書館	2	T	春・秋	必修	学校経営と学校図書館
学校図書館メディアの構成	2	T	春・秋	必修	学校図書館メディアの構成
学習指導と学校図書館	2	T	春・秋	必修	学習指導と学校図書館
読書と豊かな人間性	2	T	春・秋	必修	読書と豊かな人間性
情報メディアの活用	2	T	春・秋	必修	情報メディアの活用

司書教諭は単位修得後に文部科学省へ申請し司書教諭講習の修了証書を交付されて始めて有資格者となります。文部科学省への申請は毎年 7 月頃、年に 1 回のみのため、学習終了時期により修了証書の交付までの期間が異なりますのでご注意下さい。

春学期末(9 月)に学習を終了すると、翌年 7 月頃に申請、翌々年 3 月に修了証書が交付されます。
秋学期末(3 月)に学習を終了すると、同年 7 月頃に申請、翌年 3 月に修了証書が交付されます。

申請中は単位修得・成績証明書により資格取得見込みであることが証明できます。

【科目等履修生、資格・リカレント編入学の方へ】

最短半年で単位を修得できます。

（２）各種資格取得支援

本学では、税理士や簿記（日商簿記１級～２級レベル)、社会保険労務士等の資格の取得支援を行っています。税理士に関しては、財務諸表等の基礎知識を固めるとともに、税法３科目（法人税、消費税、相続税）すべてを網羅して税理士試験対策を行っています。また企業等の経理や総務で働くビジネスパーソンの養成、スキルアップも目的とし、会計のエキスパートの輩出を目指します。

社会保険労務士に関しては、社会保険や年金、企業における労務管理の基礎知識と、労務管理を中心とする実務的な専門知識の習得を目指します。そして社会保険労務士の資格取得を支援します。

さらに、事務系職務に携わる社会人の実務能力を測る「ビジネス・キャリア検定」(中央職業能力開発協会）や、キャリアカウンセラーを目指す方のためのキャリア・デベロップメント・アドバイザー資格（労務管理）の取得支援も行っています。

正規の科目のほか、エクステンションセンターでも資格取得支援講座を開設していますので、併せてご活用ください。

■税理士試験

下表は、税理士試験に必要とされる「受験資格」を取得できる本学開設の科目一覧です。

科目名	履修形態
経済学入門	S
法学概論	S
日本経済入門	S
財政学（国の予算と国民生活）	T
地方財政（市町村の予算と機能）	T
法人税法（総論）※	S
法人税法（各論）※	S
消費税法※	T
相続税法※	T
税務と財務諸表　※	T
株・保険・投資ファンド論　※	T

※開講する期にご注意ください。

■簿記

下表は、簿記の学習に役立つ本学開設の科目一覧です。

科目名	履修形態
会計情報システム論	S
簿記(入門)	S
簿記と経営	T
企業会計の最前線	T
原価計算(入門)	S
財務分析とマネジメント	T
税務と財務諸表※	T

※開講する期にご注意ください。

■社会保険労務士

下表は、社会保険労務士試験対策に役立つ本学開設の科目一覧です。

科目名	履修形態
社会保険労務（入門）※	T
社会保険労務（実務）※	T
生産管理※	T
株・保険・投資ファンド論※	T

※開講する期にご注意下さい。

■ビジネス・キャリア検定

中央職業能力開発協会の実施する「ビジネス・キャリア検定試験」対策に役立つ本学開設科目の一覧です。

科目名	履修形態
生産管理※	T
実践マーケティング※	S
税務と財務諸表※	T
社会保険労務（入門）※	T
社会保険労務（実務）※	T
キャリア・ディベロップメント※	T

※開講する期にご注意ください。

■キャリア・デベロップメント・アドバイザー

キャリア・デベロップメント・アドバイザーは、日本キャリア開発協会が認定する、日本国内でキャリア・カウンセリングを行う実務家のための資格です。以下の科目がその学習に役立ちます。

科目名	履修形態
社会保険労務（実務）※	T
キャリア・ディベロップメント※	T

※開講する期にご注意ください。

（３）科目修得認証

一定のメニュー科目の単位を修得したことに対する本学独自の認証で、自己啓発歴、研修歴、学習歴に加えたり、自己アピールに使ったりできるようにするものです。申請者には、本学が認証書を発行します。

なお、カリキュラム改革によって、企業とマネジメントの基礎スキル、省エネ型都市・地域づくり、社会人基礎力（１）の各科目修得認証については平成 25（2013）年度以降は取得できなくなりますので、ご注意下さい。

■生涯学習科目修得認証

生涯学習支援を行う場合に必要な知識の修得を目指します。生涯学習科目修得認証を取得後、社会教育主事資格科目からさらに 10 単位（必修の社会教育計画４単位、社会教育課題研究４単位を含む）を取得すると、社会教育主事の資格が得られます。

必修/選択（単位数）	科目名	単位数	履修形態
必修科目（４単位）	生涯学習論１（生涯における学習設計）＊	2	Ｓ／Ｔ
	生涯学習論２（生涯学習の支援・推進）＊	2	Ｔ
選択科目（１０単位） 右から５科目１０単位を 選択する。	現代社会と生涯学習	2	Ｓ
	生涯学習政策	2	Ｔ
	学社連携・融合論	2	Ｔ
	生涯学習社会と学習成果の評価	2	Ｔ
	生涯学習とキャリア形成	2	Ｔ
	学習支援情報・学習相談	2	Ｔ
合計単位数	**１４単位**		

T:テキスト履修　S：スクーリング履修（面接授業）Ｓ／Ｔ：ＳまたはＴ

*生涯学習論は科目代替可。詳細はお問い合わせ下さい。

■学習相談員基礎スキル科目修得認証

人々の学習相談に応じ、適切な情報提供サービスを行う人材が求められています。生涯学習関連施設や地域で、生涯学習のさまざまな相談ができるスキルを身につけます。

必修/選択（単位数）	科目名	単位数	履修形態
必修科目（１０単位）	生涯学習論１（生涯における学習設計）＊	2	Ｓ／Ｔ
	学習支援情報・学習相談	2	Ｔ
	生涯学習の方法	2	Ｔ
	学習相談のためのカウンセリング	2	Ｔ
	地域学習支援情報の収集・提供	1	Ｔ
	学習成果の活用と地域学習支援情報の提供	1	Ｔ
選択科目（４単位） 右から２科目４単位を 選択する。	生涯学習論２（生涯学習の支援・推進）＊	2	Ｔ
	社会教育計画１（総論）	2	Ｔ
	社会教育計画２（各論）	2	Ｔ
	生涯学習とキャリア形成	2	Ｔ
	社会教育施設と事業	2	Ｔ
合計単位数	**１４単位**		

Ｔ:テキスト履修　Ｓ：スクーリング履修（面接授業）Ｓ／Ｔ：ＳまたはＴ
*生涯学習論は科目代替可。詳細はお問い合わせ下さい。

■仕事移動診断士科目修得認証

仕事移動診断士は、転職、再就職の希望やボランティアなどの地域社会活動で別の活動に移りたいという人の希望を専門的知識・技法で診断し、社会の活性化に貢献しようとする専門家です。仕事移動診断の技法は高校、大学等での就職相談でも活用できます。

必修/選択（単位数）	科目名	単位数	履修形態
必修科目（１４単位） 右の７科目１４単位すべてを 履修する。	仕事移動診断総論	2	Ｔ
	仕事移動診断各論（転職）	2	Ｔ
	仕事移動診断各論（地域社会活動移動）	2	Ｔ
	仕事移動診断技法（転職）	2	ＳＳ
	仕事移動診断技法(地域社会活動移動)	2	ＳＳ
	生涯学習論１（生涯における学習設計）＊	2	Ｓ／Ｔ
	学習支援情報・学習相談	2	Ｔ
合計単位数	**１４単位**		

Ｔ:テキスト履修　Ｓ:スクーリング履修（面接授業）Ｓ／Ｔ：ＳまたはＴ　SS:セミナースクーリング履修（少人数制限科目）
*生涯学習論は科目代替可。詳細はお問い合わせ下さい。

■税財務・ファイナンシャルプランナー科目修得認証

経済学、財政学、税金や税務会計の基礎を学びながら、税理士やファイナンシャルプランナー等の資格取得に求められる専門知識も修得します。特に個人や企業等の投資・資産運用に関わる実践的な知識やノウハウを提供します。

必修/選択（単位数）	科目名	単位数	履修形態
必修科目（７科目１４単位） 右の７科目１４単位すべてを履修する。	経済学入門	2	Ｓ
	財政学（国の予算と国民生活）	2	Ｔ
	地方財政（市町村の予算と機能）	2	Ｔ
	法人税法（総論）	2	Ｓ
	法人税法（各論）	2	Ｓ
	税務と財務諸表	2	Ｔ
	株・保険・投資ファンド論	2	Ｔ
合計単位数	**１４単位**		

Ｔ:テキスト履修　Ｓ：スクーリング履修（面接授業）

※22 年度までに修得した「経済学概論」の単位は「経済学入門」に読み替えることができる。
22 年度までに修得した「財政学概論」の単位は「財政学(国の予算と国民生活）」に読み替えることができる。
22 年度までに修得した「地方財政・自治体論」の単位は「地方財政（市町村の予算と機能）」に読み替えることができる。

■企業とマネジメントの基礎スキル科目修得認証

社会や企業に求められるマネジメント能力、問題解決能力や意思決定能力、コミュニケーション能力等を修得します。起業を考えている人、再就職を考えている人、即戦力として自分の能力を生かしたい人を対象としています。

※平成 24（2012）年度までに取得して下さい。

必修/選択（単位数）	科目名	単位数	履修形態
必修科目（４単位）	現代日本企業概論	2	S
	現代マネジメント概論Ⅰ（基礎編）	2	S
選択科目Ⅰ（４単位） 右から２科目４単位を選択する。	テクノロジーの発達とヒューマニティ	2	S
	実践マーケティング	2	S
	生産管理	2	T
	日本経済入門	2	S
	経済学入門	2	S
選択科目 II（６単位） 右から３科目６単位を選択する。	構想力開発論	2	S
	リーダーシップ論	2	－
	現代マネジメント概論 II（応用編）	2	S
	アイディア発見スキル１（語句・文章から）	2	S
	プレゼンテーション・スキル	2	－
	近代企業家の思想と行動	2	S
合計単位数	**１４単位**		

T:テキスト履修　S：スクーリング履修（面接授業）　－：休講または開講時に指示あり

※22 年度までの「日本経済・産業概論」の単位は「日本経済入門」に読み替えることができる。

22 年度までの「経済学概論」の単位は「経済学入門」に読み替えることができる。

23 年度までの「企業経営とコーポレート・ガバナンス」の単位は選択科目Ⅰに充てることができる。

23 年度までの「顧客価値創造の経営学」「読解力スキル１（実践的読解力）」の単位は、選択科目 II に充てることができる。

■省エネ型都市・地域づくり科目修得認証

資源エネルギーの保全や保護、地球環境保護について見識を高め、経済生活やまちづくりの公共部門に応用する知識が得られます。これらをもとに具体的な政策提言を行う基礎能力を身につけます。

※平成 24（2012）年度までに取得して下さい。

必修/選択（単位数）	科目名	単位数	履修形態
必修科目 （７科目１４単位） 右の７科目１４単位すべてを履修する。	資源環境と人間	2	S
	テクノロジーの発達とヒューマニティ	2	S
	地域開発・まちづくり論	2	T
	財政学（国の予算と国民生活）	2	T
	現代日本企業概論	2	S
	リーダーシップ論 または リーダーシップとコーチング	2	S
	法学概論	2	S
合計単位数	**１４単位**		

T:テキスト履修　S：スクーリング履修（面接授業）

※22 年度までに修得した「財政学概論」の単位は「財政学(国の予算と国民生活）」に読み替えることができる。

■社会人基礎力（１）科目修得認証

国および産業界が要望している、いわゆる「社会人基礎力」の三本柱（アクション、チーム・ワーク、シンキング）、具体的には、行動力、コミュニケーション力、問題解決力、思考力等について現実的かつ基礎的な能力を身につけることを目的としています。理論のみならず、現実的、実践的な内容を取り入れています。

※平成 24（2012）年度までに取得して下さい。

必修/選択（単位数）	科目名	単位数	履修形態
必修科目（２科目４単位）	現代マネジメント概論Ⅰ（基礎編）	2	S
	文章表現１（文章表現入門）	2	S
選択科目Ⅰ（２科目４単位）右から２科目４単位を選択する。	リーダーシップ論	2	－
	リーダーシップとコーチング	2	S
	経営と行動科学	2	S
	プレゼンテーション・スキル	2	－
	現代マネジメント概論 II（応用編）	2	S
選択科目Ⅱ（３科目６単位）右から３科目６単位を選択する。	法学概論	2	S
	税務と財務諸表	2	T
	仕事学のすすめ（問題解決と意思決定）	2	S
	構想力開発論	2	S
	アイディア発見スキル１（語句・文章から）	2	S
	実践マーケティング	2	S
	生産管理	2	T
合計単位数	**１４単位**		

T:テキスト履修　S：スクーリング履修（面接授業）　－：休講または開講時に指示あり

※23 年度までに修得した「顧客価値創造の経営学」の単位は選択科目 II に充てることができる。

５　日本語力サポートプログラム

下記の科目を中心に、正しい日本語の書き方を指導し、日本語力アップをサポートします。

科目名	単位数	履修形態
「文章表現１（文章表現入門）」	2	S
「論述力スキル（アカデミック・ライティング）」	2	S
「情報リテラシー（情報活用から考え方・書き方まで）」	2	T

６　履修モデル

履修モデルは、学生が履修計画を立てる際に参考にしていただくものです。
ご自分に合った履修計画を立ててください。

生涯学習学科生涯学習支援系履修モデル
（1）社会教育主事･図書館司書･博物館学芸員資格を取得する場合

T:テキスト履修　S:スクーリング履修　S/T:S またはＴ　SS:セミナースクーリング履修　RS:レポートスクーリング履修
☆社会教育主事資格　★図書館司書資格　◇博物館学芸員資格
※科目は変更する場合があります。

科目名	資格	単位数	履修年次				履修形態・開講学期
			1 年	2 年	3 年	4 年	
基礎科目　（30 単位以上）							
生涯学習論１（生涯における学習設計）	☆★◇	2	○				S/T
生涯学習論２（生涯学習の支援・推進）	☆	2		○			T
現代社会と生涯学習	☆	2		○			S
生涯学習の方法	☆	2		○			T春
生涯学習社会と学習成果の評価	☆	2		○			T秋
社会教育施設と事業	☆	2			○		T
図書館概論	★	2	○				T
情報化社会と情報の選択（公共図書館・大学図書館編）	★	2		○			T
法学概論		2	○				S
文章表現１（文章表現入門）		2	○				S
論述力スキル（アカデミック・ライティング）		2	○				S
情報リテラシー（情報活用から考え方・書き方まで）		2	○				T
事象の探求		2			○		S春
認識と判断の心理学（人の認識と判断はいかになされているか）		2			○		S秋
才能発揮技法		2			○		S
（基礎科目　小計）			12 単位	10 単位	8 単位	0 単位	計 30 単位
専門科目　（64 単位以上）							
生涯学習政策	☆	2		○			T秋
学習支援情報・学習相談	☆	2		○			T
地域学習支援情報の収集・提供	☆	1				○	T春
学習成果の活用と地域学習支援情報の提供	☆	1				○	T秋
学習相談のためのカウンセリング		2		○			T
生涯学習とキャリア形成	☆	2	○				T
社会教育計画１（総論）	☆	2	○				T
社会教育計画２（各論）	☆	2		○			T
学社連携・融合論	☆	2				○	T春
社会教育学研究法（演習）	☆	2				○	S春
社会教育学新構想（演習）	☆	2				○	S秋
図書館制度・経営論	★	2		○			T
図書館情報技術論	★	2				○	T

科目名	資格	単位数	履修年次				履修形態・開講学期
			1年	2年	3年	4年	
図書館サービス概論	★	2	○				T
情報サービス論	★	2		○			T
児童サービス論	★	2			○		S/T
情報サービス演習	★	2			○		S
図書館情報資源概論	★	2	○				T
情報資源組織論	★	2		○			T
情報資源組織演習	★	2			○		S
博物館概論	◇	2	○				T
博物館経営論	◇	2		○			S
博物館資料論	◇	2	○				T
博物館資料保存論	◇	2			○		T
博物館展示論	◇	2			○		T
博物館教育論	◇	2			○		T
博物館情報・メディア論	◇	2			○		T
博物館実習	◇	3				○	RS
現代都市と公共政策		2				○	T
税務と財務諸表		2				○	T春
仕事移動診断総論		2		○			T
仕事移動診断各論（地域社会活動移動）		2			○		T
仕事移動診断技法（地域社会活動移動）		2				○	SS
（専門科目　小計）			12単位	18単位	16単位	19単位	計65単位
自由科目							
図書・図書館史		1			○		T
経済学入門		2	○				S
日本経済入門		2	○				S
経営学入門（世界企業の動き）		2		○			S
リスクマネジメント総論		2			○		T
財政学（国の予算と国民生活）		2		○			T
地方財政（市町村の予算と機能）		2				○	T
地域開発・まちづくり論		2				○	T
キャリア・ディベロップメント		2	○				T秋
仕事学のすすめ（問題解決と意思決定）		2	○				S秋
リスクマネジメント各論１ （金融危機、不確実性の時代）		2				○	S春
リスクマネジメント各論２ （エネルギー資源獲得のグローバル競争）		2				○	S秋
企業倫理（基礎）		2			○		T春
企業倫理（応用）		2				○	T秋
ＮＰＯ法人の基礎		2			○		T秋
（自由科目　小計）			8単位	4単位	7単位	10単位	計29単位
（総計）			32単位	32単位	31単位	29単位	計 124単位

生涯学習学科生涯学習支援系履修モデル

（2）マネジメント能力を持った社会教育主事を目指す場合

☆社会教育主事資格

T:テキスト履修　S:スクーリング履修　S/T:S または T　SS:セミナースクーリング履修

※科目は変更する場合があります。

科目名	資格	単位数	履修年次				履修形態・開講学期
			1年	2年	3年	4年	
基礎科目　（30単位以上）							
生涯学習論１（生涯における学習設計）	☆	2	○				S/T
生涯学習論２（生涯学習の支援・推進）	☆	2	○				T
現代社会と生涯学習	☆	2		○			S
生涯学習の方法	☆	2		○			T春
生涯学習社会と学習成果の評価	☆	2			○		T秋
社会教育施設と事業	☆	2			○		T
経済学入門		2		○			S
日本経済入門		2		○			S
リスクマネジメント総論		2			○		T
文章表現１（文章表現入門）		2	○				S
論述力スキル （アカデミック・ライティング）		2		○			S
情報リテラシー （情報活用から考え方・書き方まで）		2	○				T
事象の探求		2			○		S春
認識と判断の心理学 （人の認識と判断はいかになされているか）		2			○		S秋
才能発揮技法		2		○			S
（基礎科目　小計）			8単位	12単位	10単位	0単位	計30単位
専門科目（64単位以上）							
生涯学習政策	☆	2		○			T秋
学習支援情報・学習相談	☆	2			○		T
地域学習支援情報の収集・提供	☆	1				○	T春
学習成果の活用と地域学習支援情報の提供	☆	1				○	T秋
学習相談のためのカウンセリング		2	○				T
生涯学習とキャリア形成	☆	2	○				T
生涯学習学研究法（演習）	☆	2			○		S春
生涯学習学新構想（演習）	☆	2		○			S秋
社会教育計画１（総論）	☆	2	○				T
社会教育計画２（各論）	☆	2		○			T
社会教育課題研究１	☆	2				○	T
社会教育課題研究２	☆	2				○	T
学社連携・融合論	☆	2			○		T春

科目名	資格	単位数	履修年次				履修形態・開講学期
			1年	2年	3年	4年	
社会教育調査法１（社会教育調査の技法）	☆	2			○		Ｔ隔年春
社会教育調査法２（社会教育調査の実際）	☆	2			○		Ｔ隔年秋
社会教育学研究法（演習）	☆	2				○	Ｓ春
社会教育学新構想（演習）	☆	2				○	Ｓ秋
図書館情報技術論		2				○	Ｔ
図書館サービス概論		2			○		Ｔ
博物館概論		2	○				Ｔ
博物館教育論		2			○		Ｔ
財政学（国の予算と国民生活）		2	○				Ｔ
地方財政（市町村の予算と機能）		2		○			Ｔ
地域開発・まちづくり論		2			○		Ｔ
現代都市と公共政策		2				○	Ｔ
法人税法（総論）		2			○		Ｓ春
法人税法（各論）		2				○	Ｓ秋
税務と財務諸表		2				○	Ｔ春
現代日本企業概論		2	○				Ｓ秋
実践ビジネス経営学		2	○				Ｔ
企業ガバナンス論		2			○		Ｔ秋
リスクマネジメント各論１ （金融危機、不確実性の時代）		2				○	Ｓ春
リスクマネジメント各論２ （エネルギー資源獲得のグローバル競争）		2				○	Ｓ秋
（専門科目　小計）			14単位	8単位	20単位	22単位	計64単位
自由科目							
図書館概論		2		○			Ｔ
情報化社会と情報の選択 （公共図書館・大学図書館編）		2		○			Ｔ
法学概論		2	○				Ｓ
経営学入門（世界企業の動き）		2	○				Ｓ
実践マーケティング		2		○			Ｓ秋
生産管理		2				○	Ｔ秋
キャリア・ディベロップメント		2	○				Ｔ秋
仕事学のすすめ（問題解決と意思決定）		2	○				Ｓ秋
アイディア発見スキル１（語句・文章から）		2	○				Ｓ春
ＮＰＯ法人の基礎		2		○			Ｔ秋
仕事移動診断総論		2		○			Ｔ
仕事移動診断各論（転職）		2			○		Ｔ
仕事移動診断各論（地域社会活動移動）		2		○			Ｔ
仕事移動診断技法（転職）		2				○	ＳＳ
仕事移動診断技法（地域社会活動移動）		2				○	ＳＳ
（自由科目　小計）			10単位	12単位	2単位	6単位	計30単位
（総計）			32単位	32単位	32単位	28単位	計 124単位

生涯学習学科生涯マネジメント系履修モデル

□税理士　■簿記　◎社会保険労務士　◆ビジネス・キャリア検定　△キャリア・デベロップメント・アドバイザー
T:テキスト履修　S:スクーリング履修　S/T:S またはＴ　SS:セミナースクーリング履修　G:卒論関係
※科目は変更する場合があります。

科目名	資格取得支援	単位数	履修年次				履修形態・開講学期
			1年	2年	3年	4年	
基礎科目（30単位以上）							
法学概論	□	2	○				S
経済学入門	□	2	○				S
日本経済入門	□	2		○			S
経営学入門（世界企業の動き）		2	○				S
リスクマネジメント総論		2		○			T
テクノロジーの発達とヒューマニティ		2	○				S
文章表現１（文章表現入門）		2	○				S
論述力スキル（アカデミック・ライティング）		2		○			S
情報リテラシー（情報活用から考え方・書き方まで）		2	○				T
事象の探求		2			○		S春
認識と判断の心理学（人の認識と判断はいかになされているか）		2			○		S秋
才能発揮技法		2			○		S
生涯学習論１（生涯における学習設計）		2	○				S／T
生涯学習論２（生涯学習の支援・推進）		2	○				T
社会教育施設と事業		2		○			T
（基礎科目　小計）			16単位	8単位	6単位	0単位	計30単位
専門科目（64単位以上）							
財政学（国の予算と国民生活）	□	2	○				T
地方財政（市町村の予算と機能）	□	2		○			T
地域開発・まちづくり論		2			○		T
現代都市と公共政策		2				○	T
法人税法（総論）	□	2			○		S春
法人税法（各論）	□	2				○	S秋
消費税法	□	2		○			T春
相続税法	□	2				○	T秋
税務と財務諸表	□■◆	2				○	T春
株・保険・投資ファンド論	□◎	2			○		T秋
簿記(入門)	□■	2		○			S
会計情報システム論	□■	2			○		S
簿記と経営	□■	2			○		T
原価計算（入門）	□■	2		○			S
財務分析とマネジメント	□■	2				○	T
現代マネジメント概論Ⅰ（基礎編）		2		○			S

科目名	資格取得支援	単位数	履修年次				履修形態・開講学期
			1年	2年	3年	4年	
現代日本企業概論		2		○			S秋
実践ビジネス経営学		2	○				T
企業ガバナンス論		2		○			T秋
リスクマネジメント各論１ （金融危機、不確実性の時代）		2			○		S春
リスクマネジメント各論２ （エネルギー資源獲得のグローバル競争）		2				○	S秋
サプライチェーンマネジメント論		2		○			T春
企業倫理（基礎）		2		○			T春
企業倫理（応用）		2			○		T秋
生産管理	◎◆	2				○	T秋
社会保険労務（入門）	◎◆	2			○		T秋
社会保険労務（実務）	◎◆△	2				○	T春
ＮＰＯ法人の基礎	◎	2	○				T秋
特別研究(福祉国家と日米経済)		2			○		T
卒業研究演習		2				○	G
卒業論文		4				○	G
（専門科目　小計）			6単位	18単位	18単位	22単位	計64単位
自由科目							
現代マネジメント概論Ⅱ（応用編）		2		○			T春
経営と行動科学		2			○		T秋
日本型グローバル企業戦略		2	○				T
リーダーシップとコーチング		2				○	S春
近代企業家の思想と行動		2			○		S
仕事学のすすめ（問題解決と意思決定）		2	○				S秋
企業会計の最前線	■	2				○	T
実践マーケティング	◆	2				○	S秋
キャリア・ディベロップメント	◆△	2	○				T秋
構想力開発論		2		○			S秋
論理的思考１（数学的思考と発想）		2		○			S春
アイディア発見スキル１(語句･文章から)		2	○				S春
仕事移動診断総論		2		○			T
仕事移動診断各論（転職）		2			○		T秋
仕事移動診断技法（転職）		2			○		T春
（自由科目　小計）			8単位	8単位	8単位	6単位	計30単位
（総計）			30単位	34単位	32単位	28単位	計124単位

【司書資格および学芸員資格の科目改正について】

平成 24 年度から、図書館司書および博物館学芸員の資格科目が変わります。

本学を卒業予定の正科生の方

平成 24 年度以降に本学に入学する方は、新要件で資格を取得することになります。

なお、一度本学を卒業し、正科生として再入学された方も新要件が適用されます。平成 23 年度までに修得した単位の一部は読み替えることができます。科目の読み替えについては表２（司書用、30 頁）、表４（学芸員用、32 頁）を参照して下さい。

旧要件での資格取得が可能なのは、以下の(a)～(c)の条件を全て満たす場合に限ります。

(a)平成 23 年度までに本学に正科生として入学し、平成 24 年度以降にまたがって在学する（１年次入学、２年次転入、３年次編入のいずれでもよい）。

(b)在学中に旧要件科目の単位を全て修得する（新科目による読み替えも可）

(c)その後、本学を卒業する

新科目による読み替えについては、表１（司書用、29 頁）・表３（学芸員用、31 頁）をご覧下さい。

また、上記の条件を満たす方でも、平成 24 年度から数えて 4～5 年以上の長期間の在学を予定している方は、新要件での履修をおすすめします。

本学を卒業しない正科生および科目等履修生の方

新要件が適用されます。平成 23 年度までに修得した単位の一部は読み替えることができます。科目の読み替えについては表２（司書用、30 頁）、表４（学芸員用、32 頁）を参照して下さい。

他大学を卒業予定の方

他の大学もしくは短期大学に正科生として在学中で、卒業が平成 24 年度以降になる方（各資格の学歴要件を満たすのが、平成 24 年度以降となる方（※））は、平成 23 年度までに本学で資格科目の全単位を修得していても、資格取得とはなりません。新要件での資格取得を目指す必要があります。

（※）各資格の学歴要件は、以下の通り。

- 図書館司書･･･短期大学もしくは四年制大学卒業
- 博物館学芸員･･･四年制大学卒業（学士の学位）

ご不明な点がありましたら、お気軽に入学支援相談センターまたは学生支援センターにご相談ください。

表１　司書資格の旧要件適用者の単位読み替えについて

（対象：H23 年度以前から正科生として在学し、H24 年度以降に本学を卒業する者）

群	読み替え先		読み替え元		備考
	旧要件科目（経過科目） 【本学開設科目】H23 年度まで	単位数	**新要件科目 【本学開設科目】H24 年度以降**	単位数	**※④は卒業単位に関わるので必ず目を通すこと。**
甲	**生涯学習論１ （生涯における学習設計）**	2	生涯学習論１ （生涯における学習設計）	2	※継続開講
	図書館概論	2	図書館概論	2	
	図書館経営論	1	図書館制度・経営論	2	①参照
			図書館情報技術論	2	履修する必要はないが履修可。（②参照）
	図書館サービス論	2	図書館サービス概論	2	
	情報サービス概説	2	情報サービス論	2	
	児童サービス論	1	児童サービス論	2	①参照
	レファレンスサービス演習	1	情報サービス演習※	2	
	情報検索演習	1			
	図書館資料論	2	図書館情報資源概論	2	
	資料組織概説	2	情報資源組織論	2	
	資料組織演習	2	情報資源組織演習※	2	
	専門資料論	1			**H23 年度秋学期までに修得すること。**（③参照）
乙（選択 2 科目）	**情報化社会と情報の選択 （公共図書館・大学図書館編）**	2	情報化社会と情報の選択 （公共図書館・大学図書館編）	2	※H19 年度までの「情報化社会と情報と選択」も引き続き旧要件科目として認められる。
	図書及び図書館史	1	図書・図書館史	1	

履修上の注意点

（H23 年度以前から H24 年度以降にまたがって正科生として在学し、本学を卒業する者）

①「図書館経営論」と「児童サービス論」は H23 年度までに修得すると、対応する新要件科目を履修するよりも単位数が少なく済む。

②新要件科目の「図書館情報技術論」は、旧要件で資格取得する場合は不要であるが、履修しても良い（卒業単位として認められる）。

③「専門資料論」は H23 年度秋学期までに修得すること。

④左欄（旧要件）の科目の単位を修得した上で右欄（新要件）の科目を履修すると重複履修となり、後者は卒業単位として認められない。

「レファレンスサービス演習」と「情報検索演習」のいずれか一方しか修得していない場合は新要件科目の「情報サービス演習」（2 単位）の単位を修得して読み替えることになるが、その際、新要件科目の 2 単位は卒業単位としては認められないので注意。

※新要件に合わせて調整中のため単位数に変更が生じる可能性があります。詳細は別途お問合せください。

表２　司書資格の新要件適用者の単位読み替えについて
（対象：平成 23 年度以前から在籍する本学を卒業しない正科生、
平成 23 年度以前に修得した単位を活かしたい科目等履修生など）

群	読み替え先		読み替え元（既修得科目）		備考 ⑤は新要件で資格を取得しようとする正科生の卒業単位に関わる注意事項なので、該当者は必ず目を通すこと。
	新要件科目 【本学開設科目】H24 年度以降	単位数	旧要件科目（経過科目） 【本学開設科目】H23 年度まで	単位数	
甲	生涯学習論１ （生涯における学習設計）	2	生涯学習論１ （生涯における学習設計）	2	※継続開講 ※生涯学習論 B1 も可
	図書館概論	2	図書館概論	2	
	図書館制度・経営論	2	図書館経営論	1	①参照
	図書館情報技術論	2			②参照
	図書館サービス概論	2	図書館サービス論	2	
	情報サービス論	2	情報サービス概説	2	
	児童サービス論	2	児童サービス論	1	①参照
	情報サービス演習※	2	レファレンスサービス演習	1	旧要件科目を履修する場合、2科目の単位修得が必要。 （③参照）
			情報検索演習	1	
	図書館情報資源概論	2	図書館資料論	2	
	情報資源組織論	2	資料組織概説	2	
	情報資源組織演習※	2	資料組織演習	2	
			専門資料論	1	読み替えられないので注意。 （④参照）
乙 （選択 2 科目）	情報化社会と情報の選択 （公共図書館・大学図書館編）	2	情報化社会と情報の選択 （公共図書館・大学図書館編）	2	※H19 年度までの「情報化社会と情報の選択」も新要件科目への読み替えが認められる。
	図書・図書館史	1	図書及び図書館史	1	

履修上の注意点
（新要件適用者で、司書資格を取得するための単位修得が H23 年度から H24 年度以降にまたがる者）

①「図書館経営論」と「児童サービス論」を H23 年度までに修得すると、対応する新要件科目よりも修得する単位数が少なく済む。

②新要件科目「図書館情報技術論」は新規科目のため必ず履修する必要がある。

③旧要件科目を履修する場合、「レファレンスサービス演習」と「情報検索演習」は、いずれか一方ではなく両方の単位修得が必要。
　いずれか一方だけでは、新要件科目「情報サービス演習」に読み替えられない（必ず新要件科目を履修しなければならない）ので注意。

④旧要件科目「専門資料論」は新科目に読み替えができないので注意。

⑤【正科生の卒業希望者へ】
　右欄（旧要件）の科目の単位を修得した上で左欄（新要件）の科目を履修すると重複履修となり、後者は卒業単位として認められない。
　たとえば、「レファレンスサービス演習」や「情報検索演習」の単位を修得していると、新要件科目の「情報サービス演習」の 2 単位は卒業単位としては認められないので注意。

※新要件に合わせて調整中のため単位数に変更が生じる可能性があります。詳細は別途お問合せください。

表３　学芸員資格の旧要件適用者の単位読み替えについて

（対象：H23 年度以前から正科生として在学し、H24 年度以降に本学を卒業する者）

読み替え先		読み替え元		備考
旧要件科目【本学開設科目】 H23 年度まで	単位数	新要件科目【本学開設科目】 H24 年度以降	単位数	⑤は卒業単位に関わるので、必ず目を通すこと。
生涯学習論1 （生涯における学習設計）	2	生涯学習論1 （生涯における学習設計）	2	※継続開講
博物館学（概論）	2	博物館概論	2	
博物館学（経営論・情報論）	2	博物館経営論	2	①参照
		博物館情報・メディア論	2	②参照
視聴覚教育メディア論	1			③参照
博物館学（資料論）	2	博物館資料論	2	
		博物館資料保存論	2	履修する必要はないが履修可。（④参照）
		博物館展示論	2	履修する必要はないが履修可。（④参照）
教育の理論	2	博物館教育論	2	「教育学概論」(ただしH18 年度までに単位を修得した場合)も旧要件科目として引き続き認められる。
博物館実習	3	博物館実習	3	実習を行う前の学期までに、他の必要な単位を全て修得しておくこと。

履修上の注意点

（H23 年度以前から H24 年度以降にまたがって正科生として在学し、本学を卒業する者）

①「博物館経営論」だけでは「博物館学（経営論・情報論）」に読み替えられない。「博物館情報・メディア論」の修得が必要である。

②「博物館情報・メディア論」だけでは「博物館学（経営論・情報論）」に読み替えられない。「博物館経営論」の修得が必要である。

③「博物館情報・メディア論」を修得すると「視聴覚教育メディア論」に読み替えられる。

④「博物館資料保存論」および「博物館展示論」は旧要件で資格を取得する場合には不要であるが、履修可能である（卒業単位として認められる）。

⑤左欄（旧要件）の科目の単位を修得した上で右欄（新要件）の科目を履修すると重複履修となり、後者は卒業単位として認められない。

特に以下の点に注意すること。

・「博物館学（経営論・情報論）」を修得したものは、「博物館経営論」や「博物館情報・メディア論」を履修すると重複履修となり、新要件科目を卒業単位に充てることができない。

・「視聴覚教育メディア論」を修得したものは、「博物館情報・メディア論」を履修すると重複履修となり、後者を卒業単位に充てることができない。

※H23 年度までに「博物館学（経営論・情報論）」と「視聴覚教育メディア論」の両方の単位を修得しておくとよい。理由は以下の通り。

・「博物館学（経営論・情報論）」だけでは、新要件科目「博物館情報・メディア論」2単位が必要となり、修得する単位数が1単位多くなる。

・「視聴覚教育メディア論」しか修得していない場合、「博物館経営論」「博物館情報・メディア論」計4単位の修得が必要となる。

表４　学芸員資格の新要件適用者の単位読み替えについて

（対象：平成 23 年度以前から在籍する本学を卒業しない正科生、
平成 23 年度以前に修得した単位を活かしたい科目等履修生など）

読み替え先		読み替え元（既修得科目）		備考
新要件科目【本学開設科目】H24 年度以降	**単位数**	**旧要件科目【本学開設科目】H23 年度まで**	**単位数**	⑦・⑧は新要件で資格を取得しようとする正科生の卒業単位に関わるので、該当者は必ず目を通すこと。
生涯学習論１（生涯における学習設計）	2	生涯学習論１（生涯における学習設計）	2	※継続開講 ※生涯学習論 B1 も可
博物館概論	2	博物館学(概論)	2	①参照
博物館経営論	2	博物館学(経営論・情報論)	2	①、②参照
博物館情報・メディア論	2	博物館学(経営論・情報論)	2	①、③参照
		視聴覚教育メディア論	1	①、③、④参照
博物館資料論	2	博物館学(資料論)	2	
博物館実習	3	博物館実習	3	実習を行う前の学期までに、他の必要な単位を全て修得しておくこと。H24 年度春学期に実習を希望する新要件適用者は、⑤を参照のこと。
博物館資料保存論	2			新規開設科目。⑤参照
博物館展示論	2			新規開設科目。⑤参照
博物館教育論	2			・「博物館教育論」は新規開設科目。 ・「教育の理論」「教育学概論」は「博物館教育論」には読み替えられない。（⑤、⑥参照） ・**【正科生へ】**「教育の理論」と「博物館教育論」の両方を履修すると重複履修扱いとなるので、卒業単位の計算の際には注意すること。（⑧参照）
		教育の理論 教育学概論（H18 年度まで）	2 2	

履修上の注意点

（新要件適用者で、学芸員資格を取得するための単位修得が H23 年度から H24 年度以降にまたがる者）

①「博物館学（概論・経営論・情報論）」(H19 年度まで開講）の読み替えについては、別表を参照のこと。

②「博物館学（経営論・情報論）」は、「博物館経営論」に読み替えができる。

③「博物館学（経営論・情報論）」と「視聴覚教育メディア論」の両方の単位を修得していることにより、新科目「博物館情報・メディア論」に読み替えができる。

④「視聴覚教育メディア論」単独では読み替えられないので注意。

⑤「博物館実習」の履修には、前学期までに他の必要な科目の単位を全て修得している必要がある（⑥の 2 科目「教育の理論」および「教育学概論」を除く）。

ただし、H23 年度秋学期までの入学者で、H24 年度春学期に「博物館実習」を履修する新要件適用者に限り、新規開設科目（追加して履修する必要のある科目）を「博物館実習」と同じ H24 年度中（春学期・秋学期）に履修することを認める。

これは、H24 年度春学期に「博物館実習」を履修する者に限り認める本学の特例措置であり、H24 年度秋学期以降の「博物館実習」履修者には適用されない。

⑥「教育の理論」および「教育学概論」は、「博物館教育論」に読み替えることができないので注意。

⑦【正科生の卒業希望者へ】 右欄（旧要件）の科目の単位を修得した上で左欄（新要件）の科目を履修すると重複履修となり、後者は卒業単位として認められない。特に以下の点に注意すること。

・「博物館学（経営論・情報論）」を修得したものは、「博物館経営論」や「博物館情報・メディア論」を履修すると重複履修となり、新要件科目を卒業単位に充てることができない。

・「視聴覚教育メディア論」を修得したものは、「博物館情報・メディア論」を履修すると重複履修となり、後者を卒業単位に充てることができない。

⑧【正科生の卒業希望者へ】

「教育の理論」の単位を修得した者は、「博物館教育論」を履修すると重複履修となり、後者は卒業単位として認められないので注意すること。

別表：「博物館学（概論・経営論・情報論）」(H19 年度まで開講）の単位修得者の場合

読み替え先		読み替え元（既修得科目）		備考
新要件科目【本学開設科目】24 年度以降	**単位数**	**旧要件科目【本学開設科目】**	**単位数**	
博物館概論 **博物館経営論**	2 2	博物館学（概論・経営論・情報論）のみを修得している場合	4	【正科生の卒業希望者へ】 右欄の科目の単位を修得した上で左欄（新要件）の科目を履修すると重複履修となり、後者は卒業単位として認められない。
博物館概論 **博物館経営論** **博物館情報・メディア論**	2 2 2	博物館学（概論・経営論・情報論） 視聴覚教育メディア論 の両方を修得している場合	4 1	

【紹介】

レジリエンス（成長性弾力）準系について

八洲学園大学生涯学習学部生涯学習学科では、平成 23 年度からレジリエンス（成長性弾力）準系を新設し、その充実を図るべく検討を行っています。

■レジリエンス（Ｖ字型回復力・成長性弾力）とは？

レジリエンス（resilience）とは、弾力、弾性、弾力性、復元力、回復力、立ち直る力という意味です。本学ではそれを「Ｖ字型回復力・成長性弾力」と呼ぶことにしました。

これからの社会では、柔軟に問題を解決し、困難にぶつかっても、それを乗り越えるレジリエンス（Ｖ字型回復力・成長性弾力）が必要です。各方面で、レジリエンスを身につけ、それを磨くことを通して就業力や社会参画力を有した人材が求められています。そのような力を持つ人材を本学ではＶ字型職業人と呼んでいます。

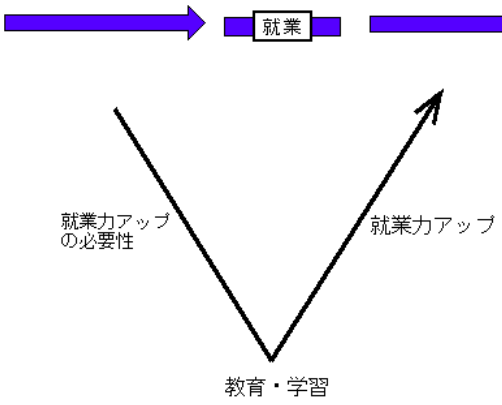

図　Ｖ字型職業人

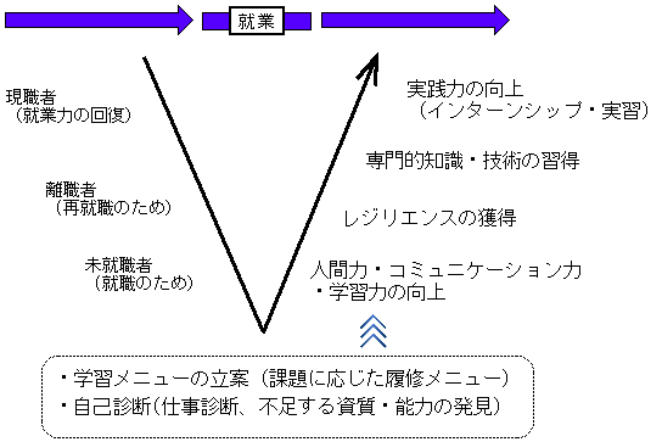

図　Ｖ字型職業人の就業力育成

■レジリエンス準系の構成

生涯学習支援系の学生も生涯マネジメント系の学生も意欲を持って学べるように、レジリエンス準系を生涯学習支援系と生涯マネジメント系にまたがる領域として設置しています。

そのため、レジリエンス準系と生涯学習支援系・生涯マネジメント系の関係は、右図のようになります。

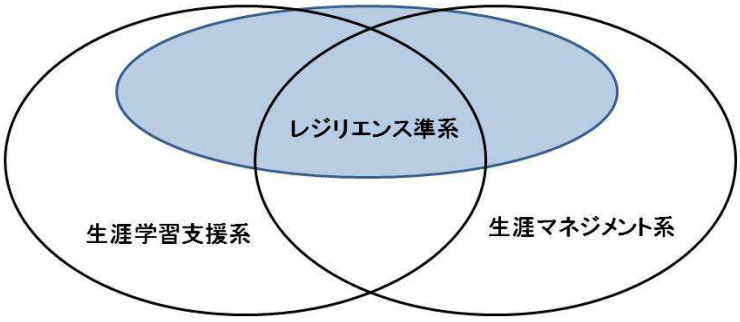

図　レジリエンス準系、生涯学習支援系、生涯マネジメント系の関係

右の図は本学で養成するレジリエンスの構造です。情報収集力から、“事象把握力→論理力”と“判断力→行動力”を並行して養い、最後の創造力に至ります。本学独自のまったく新しい教育・研究の体系です。

レジリエンス準系では、これらの力を育成する科目の他、学習力、人間力、自己診断力を養うための科目を用意しています（下表）。今後さらに科目を充実させていく予定です。

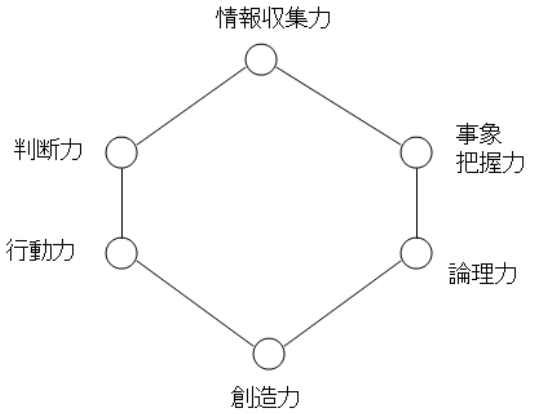

図　レジリエンスの構造

表　レジリエンス準系の科目（領域等は開発中のため、今後変更することもあります）

領域		科目		
		基礎科目	生涯学習支援系	生涯マネジメント系
レジリエンスのコア科目	情報収集力育成	情報リテラシー（情報活用から考え方・書き方まで）	社会教育調査法１・２、地域学習支援情報の収集・提供、学習成果の活用と地域学習支援情報の提供、情報サービス演習	財務分析とマネジメント 実践マーケティング
	事象把握力育成	事象の探求		
	論理力育成	情報リテラシー（情報活用から考え方・書き方まで）	生涯学習学研究法（演習）	論理的思考１（数学的思考と発想）
	判断力育成	認識と判断の心理学 リスクマネジメント総論		リスクマネジメント各論１ リスクマネジメント各論２ 仕事学のすすめ（問題解決と意思決定）
	創造力育成	才能発揮技法	社会教育学研究法(演習)	アイディア発見スキル１（語句・文章から） 構想力開発論
学習力育成			生涯学習の方法、 社会教育学研究法(演習)、 社会教育学新構想(演習)、 生涯学習学研究法(演習)、 生涯学習学新構想(演習)	
自己分析・診断力育成				キャリア・ディベロップメント、仕事移動診断総論、仕事移動診断各論（転職）、仕事移動診断技法（転職）、仕事移動診断各論（地域社会活動移動）、仕事移動診断技法（地域社会活動移動）
人間力育成	市民性			テクノロジーの発達とヒューマニティ、資源環境と人間、企業倫理(基礎、応用)、近代企業家の思想と行動
	コミュニケーション力		学習相談のためのカウンセリング	自己表現力スキル１・２、プレゼンテーション・スキル、リーダーシップとコーチング、リーダーシップ論
	日本語力			文章表現１（文章表現入門） 論述力スキル（アカデミック・ライティング）

専門的知識・技術としては【生涯学習論】【社会教育学】【図書館学】【博物館学】【経済学・財政学】【会計学・簿記】【経営学・マネジメント論】等の科目があげられます。

ご質問、お問い合わせは下記までお気軽にどうぞ

八洲学園大学　入学支援相談センター
学生支援センター
〒220-0021　神奈川県横浜市西区桜木町 7 丁目 42 番地
電話　：　045-410-0515（平日 9:00～21:30、土日祝 9:00～17:00）
メール　：　u-info@yashima.ac.jp